

## 宮崎県感染症対策連携協議会 県行動計画改定に係る主な意見

(協議会員意見)

- 感染症はヒト対ヒトによる感染経路だけではないため、ワンヘルスアプローチの視点も計画に盛り込む必要があるのではないか。

→ (県回答)

- ワンヘルスアプローチの観点は大変重要であると認識している。政府行動計画も踏まえながら検討を進めてまいりたい。

⇒【その後の対応】

- 素案策定に当たり検討中。

(協議会員意見)

- 資料 1 の 4 ページ「④情報提供・共有、リスクコミュニケーション」について、有事では取組が強化されると考えるため、平時と有事それぞれの方向性を示した方が良いのではないか。

→ (県回答)

- 平時から有事まで継続して取組を進めるという考え方の下、資料中の記載内容となったが、いただいた御意見も踏まえながら検討を進めてまいりたい。

⇒【その後の対応】

- 御意見を踏まえ、資料 1 - 1 の 4 ページの同項目に、平時と有事それぞれの方向性を記載。

(協議会員意見)

- 資料 1 の 2 ページ「1 基本的な考え方」について、「特定の感染症のみを前提とするのではなく」とあるが、「新型インフルエンザ等の特性を踏まえ」とも記載されており、新興感染症対策なのか、新型インフルエンザ対策なのか分かりづらく、文言に工夫が必要ではないか。また、有事のシナリオの 3 つの期間設定について、予防計画における「流行初期」「流行初期以降」の期間設定と整合性を取る必要があるのではないか。

→ (県回答)

- 文言については、できるだけ分かりやすい内容となるよう努めたい。期間設定については、国の方針に基づき、行動計画における一部対策の「対応期」をさらに細分化し「流行初期」「流行初期以降」を設けて両期間中の取組を示したいと考えており、予防計画との整合性を図ってまいりたい。

⇒【その後の対応】

- 資料 1 - 1 の 2 ページに本計画の対象となる感染症を追記。また、計画本文中にも対象となる感染症を記載。